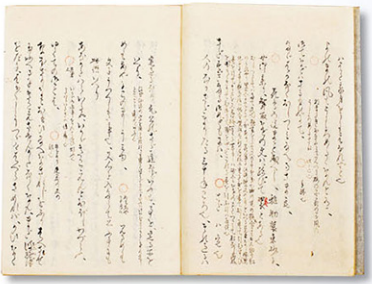
N.D.S.U. Collection〔16〕

『源氏物語新釈』



賀茂真淵による『源氏物語』54帖にわたる注釈書。全72冊。函架番号913.364／K／1-72。縦27.0cm×横19.4cm。袋綴。楮紙。薄茶色卍繋表紙。表紙左肩、題箋「源氏物語新釈　桐つほ　上　壱」等。墨付一丁表右上「観瀾」、下に「田中書庫」「ノートルダム清心女子大学蔵書之印」の朱陽印。夢浮橋巻末には、真淵の奥書の他、「冬嶺」なる人物の識語があり、文政10(1827)年6月に書写した本文であることが知られる。本書は、1991年8月20日に、京都大学名誉教授であり、本学国文学科教授であった澤瀉久孝氏の京都大学時代の教え子、田中準氏から本学に寄贈された古典籍類に含まれていたものである。

『源氏物語新釈』は、真淵が当時仕えていた田安家の求めに応じて作成したものであるが、成立までに『湖月抄』自筆書入本、『湖月抄』貼紙書入本、清書本という段階を経ているとされる。本学には黒川文庫に、真淵自筆書入本が1冊（末摘花巻のみ。Bulletin 第174号 N.D.S.U.Collection〔12〕）所蔵されているが、本書は清書本にあたり、学界未紹介本である。本文の形態は、物語本文を引用し、朱筆の「○」で区切り、その後注釈を施すという体裁で、注釈は本文と同様の字体のものと細字のものがある。物語本文の引用は、全文を区切りながら書写しており、「○」の後に注釈のない項目も散見される。『源氏物語新釈』は各段階の自筆本・写本が多数現存するものの、本書のごとく全冊揃った本は少なく、貴重である。今後、他本と比較することにより、本文の特質も明らかになってこよう。

（文学研究科 日本語日本文学専攻 博士後期課程3年　伊永　好見・日本語日本文学科 准教授　新美　哲彦）